

平成 27 年度日本医療研究開発機構(AMED)研究事業

アロマセラピーに関するエビデンス収集及び新たな科学的知見の創出

前田和久

大阪大学大学院医学系研究科内分泌代謝内科特任講師／北千里 前田クリニック

1992 年 NIH に発足したアメリカ国立補完代替医療センター（National Center for Complementary and Alternative Medicine, 略称:NCCAM）では、通常医療にはない新たな予防法・治療法の開発が期待され、莫大な研究費が投じられてきたにもかかわらず、実施された病気の予防・治療を目的とした臨床試験のほとんどは思わしい結果ではなく、国民やメディアから税金の無駄遣いとして厳しい批判を受けてきた（以上 Wikipedia より）。

その後、NCCAM は 2014 年 12 月、アメリカ国立補完統合センター（National Center for Complementary and Integrative Health, 略称: NCCIH）に名称が変更され、各種施術療法の総称として、補完代替医療（complementary and alternative medicine）ではなく、補完的健康アプローチ（complementary health approaches）を使い、新たな研究が実施されるようになった。

こうした状況を受け、我々はアロマセラピーによる Integrative Healthcare を目指し、平成 27 年度日本医療研究開発機構（AMED）研究の一環として「アロマセラピーに関するエビデンス収集及び新たな科学的知見の創出」を提案申請し、関連分野では文科省並びに厚労省関連の科学研究費としては初となる研究事業としての採択を受けた。

本事業では

- 1) 国内外の豊富なネットワークを通じて徹底的なエビデンスの収集と実態調査を行い
- 2) アロマセラピーの基本的なメカニズムである経鼻吸収と経皮吸収の検証に向け最先端の客観的な評価方法により我が国発の新たな科学的エビデンス創出を目指し、
- 3) 最終的には医師主導の Integrative Healthcare に取り組むためのガイドライン構築を行う。

本講演では本事業の最新状況について紹介するとともに、我が国発の Integrative Healthcare 実践に向けたアロマセラピーの在り方についても議論したい。

略歴

平成1年 大阪大学医学部卒業

平成5年 大阪大学細胞工学センター研究員

ヒトゲノムプロジェクトにおいてヒトアディポネクチン遺伝子をクローニング

平成11年 ハーバード大学パブリックヘルス校栄養部門留学、同校助手。

平成14年 帰国後、大阪大学附属病院未来医療センター、循環器内科学助手、内分泌
代謝内科学医学部講師、生体機能補完医学講座准教授を経て

平成27年 現職

学会 内科、循環器、糖尿病、肥満症、抗加齢医学、アロマセラピー各専門医。

賞与 2004年 日本肥満学会学術奨励賞（旧肥満学会賞）

